

## スタップ工法技術資料

内装タイル張り

2026.5.31.Ver1.3

株式会社アイコットリョーワ

Tel:0572-27-6161

〒507-0068 岐阜県多治見市大藪町1989番地の5



# はじめに

本書をご活用いただくにあたり

「スタッフ工法 内装タイル張り」は、有機系接着剤などを用いて、住宅の内装下地にタイルを施工する工法です。

近年、デジタル加色技術の進化により、タイルは天然石と見分けがつかない、あるいはそれを超える多彩な意匠表現が可能となりました。これに伴い、住まいに求められる価値観も多様化し、壁仕上げにおいても、従来のビニル系壁紙（いわゆるビニルクロス）に加え、珪藻土・漆喰などの健康配慮型素材や、天然木のような素材感を重視した仕上げが選ばれる機会が増えています。

また、室内でペットと暮らすライフスタイルも一般化しており、傷や汚れに強く、衛生面でも優れたタイル材のニーズが高まっています。特に床仕上げにおいては、清掃性や耐久性を重視した内装タイルの採用が増えており、快適で長持ちする住環境の実現に貢献しています。

このような背景のもと、本書では壁面および床面を含む内装タイル張り工事における、適切な施工方法と品質確保のポイントを整理し、不具合の未然防止を目的として作成されています。適用される下地材やタイルの種類により施工方法は多岐にわたるため、工事着手前には本書を十分にご確認いただき、正確かつ確実な施工により、高品質な内装仕上げを実現していただきますようお願いいたします。

なお、本書はすべての建築物の仕様を網羅したものではありません。実際の採用にあたっては、関係者間での十分な打合せをお願いいたします。

危険や損害の表示区分：

表示内容に従わなかった場合に生じる危害や損害を次の表示で区分しています。



禁止：行ってはいけない禁止内容の表示です。



警告：取扱いを誤った場合に、死亡または重傷、障害を負う可能性がある場合の表示です。



指示：守るべき行動の表示です。誤った行動の場合は、物的損傷や重大な不具合の可能性のある場合の表示です。

# INDEX

---

1.	設計・施工条件.....	3
1.1.	システム構成.....	3
1.2.	適用条件.....	4
1.3.	禁止事項.....	5
2.	構成部材.....	6
2.1.	構成部材一覧.....	6
2.2.	構成部材姿図.....	6
2.3.	推奨工具.....	7
3.	内装壁 施工手順.....	8
3.1.	事前チェック.....	8
3.2.	割付け・墨出し.....	8
3.3.	付属部材の取付け.....	8
3.4.	タイル張り.....	8
3.5.	シーリング工事.....	10
3.6.	清掃・残材処理.....	11
3.7.	点検・補修.....	11
4.	内装床 施工手順.....	12
4.1.	事前チェック.....	12
4.2.	割付け・墨出し.....	12
4.3.	付属部材の取付け.....	12
4.4.	タイル張り.....	12
4.5.	目地処理.....	13
4.6.	清掃・残材処理.....	13
4.7.	補修・点検.....	13
5.	納まり図.....	14
5.1.	内装壁.....	14
5.2.	内装床.....	14
6.	注意事項.....	15
6.1.	安全衛生について.....	15
6.2.	部材保管・納入時の注意.....	15
6.3.	維持管理のポイント.....	15
7.	適用タイルリスト (2026.4).....	16
7.1.	内装壁.....	16
7.2.	内装床.....	16

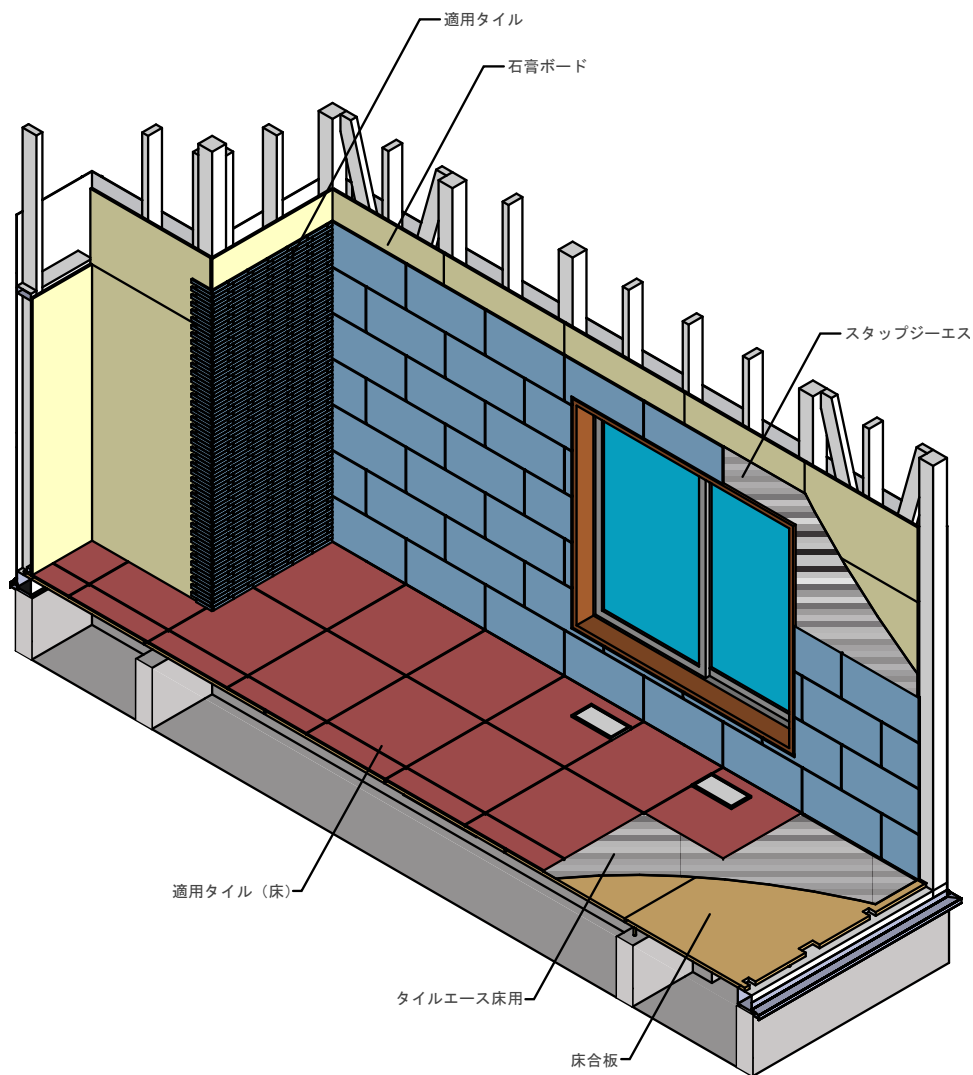
## 1. 設計・施工条件

### 1.1. システム構成

本書では、木造軸組構造を代表例としています。基本的には、枠組壁構造や鉄骨造においても同様に適用することができます。この考え方の前提には、タイル張りに適した下地が健全に施工されていることが前提となっています。下地の種類、階高、設計の考え方により適用可否は異なります。詳細については、支店および営業所までお問い合わせください。

また、外装用途との併用が規定されているタイルは、寸法などの精度に関して比較的広い許容公差が設定されています。本書で扱う内装への使用においては、施工により仕上がり精度を確保するとともに、ある程度ラフな仕上がりとなることを前提としています。

#### ■ 木造軸組構造のタイル張り例



## 1.2. 適用条件

### 1.2.1. 適用範囲

適用範囲は以下の条件となります。

項目		下地の適用範囲
地域	一般地域	建築基準法施行令 第128条の3（内装制限）に適合し、告示1400号に準ずる下地※1
	寒冷地域	
適応建物	構造	木造軸組工法／木造枠組工法／軽量鉄骨造／鉄筋コンクリート造※2
	高さ	3m未満／3mを超える場合は別途下地補強
断熱材	外部に接する壁	充填断熱／吹付断熱
	内部のみの壁	断熱材未充填壁（間仕切壁等）
	内部の床	充填断熱／吹付断熱／断熱材未充填（基礎断熱）／床暖房含む
下地組	種類	柱・間柱・大引・土台・根太
	樹種	KD材（日本農林規格 JAS 適合品）／ 建築用軽量形鋼（JIS A 6517）

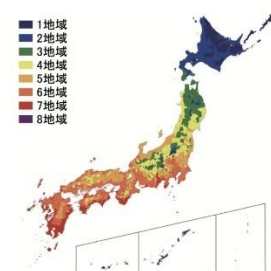
※1 本書では石膏ボード（JIS A 6901）、ケイ酸カルシウム板（JIS A 5430）を指しています。その他下地の内装制限については、別途お問い合わせください。

※2 鉄筋コンクリート造の内壁では、LGSの下地組に※1板体が施工された状態を指しています。

### 1.2.2. 適用地域

スタップ工法は、右記に示す「建築物省エネ法」地域に適用します。詳細地域は、国土交通省HPの最新地域区分表をご確認ください。

「建築物省エネ法」に基づく適用地域を区別していますが、適用地域を制限するものではありません。



### 1.2.3. 適用下地の種類

本マニュアルに適用する下地の一例を以下に示します。各下地の取付方法については、内装工事標準仕様書（JASS 26）または製造メーカーの仕様に従ってください。

区分	名称	品質・規格	直張り	注意事項	補足事項
壁	石膏ボード	JIS A 6901	○	厚さ 9.5 mm以上	高さ条件
	ケイ酸カルシウム板	JIS A 5430	○	6 mm以上（2枚張り）、 8 mm以上（1枚張り）	下擦り処理、比重 1.0 mm以上
	構造用合板	JAS 600	○	厚さ 9.0 mm以上	
床	構造用合板	JAS 600	○	厚さ 12.0 mm以上	剛床構造 24 mm含む

### 1.2.4. 適用接着材の種類

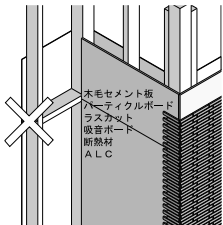
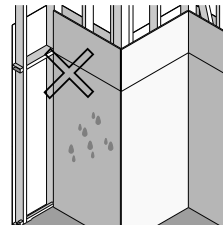
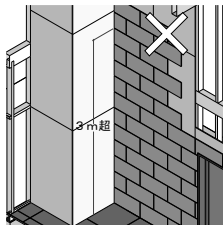

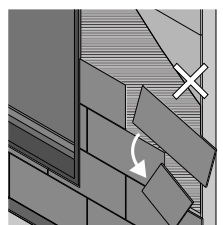

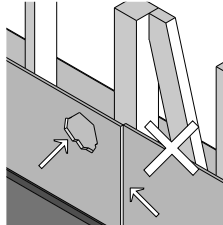
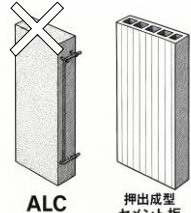
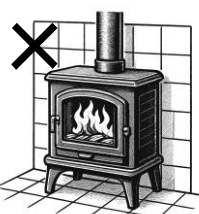
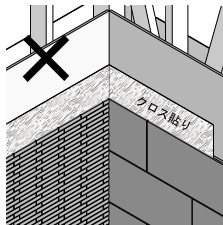
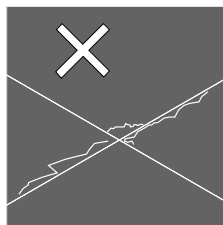
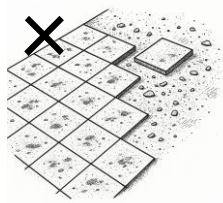
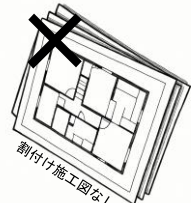

本マニュアルに適用する接着材を以下に示します。接着剤の塗布方法についてはタイルの形状と大きさに従ってください。

区分	名称	品質・規格	メーカー	組合わせるタイルの種類
壁	スタップジーエス	JIS A 5548	(株) アイコットリョーフ	モザイク、ボーダー、630
	スタップジーレス	JIS A 5448	(株) アイコットリョーフ	モザイク、ボーダー、二丁掛け
	タイルエースF	JIS A 5448	セメダイン (株)	630、600角
	タイルエース石材用	-	セメダイン (株)	630、600角
床	タイルエース床用	-	セメダイン (株)	300角、630、600角

## 1.3. 禁止事項

次のような部位での施工および使用はトラブルや事故の原因となるため禁止します。







<p>■ 不適合下地への施工 接着不良の原因となります。タイルの破損・落下につながる恐れがあります。</p> 	<p>■ 水濡れした下地への施工 濡れた下地への施工は避けてください接着不良の原因となります。</p> 	<p>■ 階高を超える設計 タイル張りは、階高3m範囲内としてください。階高範囲を超える場合は、下地補強処理が必要となります。</p> 
<p>■ 指定されていないタイルの張付け 本書未掲載のタイルは使用しないでください。</p> 	<p>■ 指定されていない接着剤の使用 適用外の接着剤は、使用しないでください。接着不良の原因となります。</p> 	<p>■ 接着剤の圧着不足 タイル張りは、揉みこみ圧締を十分におこなってください。接着不良の原因となります。</p> 
<p>■ 温度管理を怠った施工 環境温度5℃を下回る場合は、施工を避けてください。</p> 	<p>■ 下地調整の未実施 下地面の著しい凹凸、段差や目違いなどは、下地調整を行ってください。</p> 	<p>■ 帳壁への直張り ALC、押出成型セメント板などへの直張り施工は本書の適用外となります。</p> 
<p>■ 異常な温度変化のある部位への施工 張付け接着剤の劣化、膨張収縮の繰返しにより、タイルの破損・落下につながる恐れがあります。</p> 	<p>■ クロス施工面へのタイル張り クロス面へのタイル張りはできません。タイルの破損・落下につながる恐れがあります。</p> 	<p>■ タイルの突きつけ施工 突きつけ施工は、地震時や下地の変動による応力が逃げにくく、タイルの破損・落下につながる恐れがあります。</p> 
<p>■ 清掃の不足 施工箇所および周囲は清潔にしてください。塵埃などが接着不良、仕上り不良の原因となります。</p> 	<p>■ 割付け施工図の未作図 契約不適合となる場合があるので、作図もしくは特記にて仕様を明示してください。</p> 	<p>■ 法令・施工要領・JIS規格を無視した施工 タイル張りの仕様不適合だけではなく、建築基準法などの法令違反となります。</p> 

## 2. 構成部材

### 2.1. 構成部材一覧



No.	項目	品名	品番	仕様	メーカー	梱包数量	必要数
1.	適用タイル	カタログ参照			(株)アイコットリョーフ	カタログ参照	-
2.	接着剤	スタップ・ジーエス (2 kg/本)	STAP-GS**	変成シリコン系	(株)アイコットリョーフ	9本/箱	1本/m <sup>2</sup>
3.		スタップ・ジーレス (2 kg/本)低粘度	STAP-GLS**	変成シリコン系	(株)アイコットリョーフ	9本/箱	1本/m <sup>2</sup>
4.		タイルエースF	RE-217	変成シリコン系	セメダイン(株)	20本/箱	1本/m <sup>2</sup>
5.		タイルエース石材用	RE-405	変成シリコン系	セメダイン(株)	20本/箱	1本/m <sup>2</sup>
6.		タイルエース床用	RE505	変成シリコン系	セメダイン(株)	9本/箱	1本/m <sup>2</sup>
7.	補修材	タッチアップ	SIZAI TOUC	溶剤系	(株)アイコットリョーフ	50ml/缶	-
8.		フェイスコート	SIZAI FACE	シリコーン系溶剤	(株)アイコットリョーフ	50ml/缶	-
9.	目地材	ブリックマスター	IC-***	既成調合モルタル	(株)アイコットリョーフ	25 kg/袋	-
10.	施工補助材	スパーサークリップ	TT500L-2	PE	(株)アイコットリョーフ	500個/袋	-
11.		プラクサビ	TK100	PE	(株)アイコットリョーフ	100個/袋	-
12.		十字クロススパーサー	KS-3, KS-5	PE	(株)アイコットリョーフ	100, 200個/袋	-
13.		T字クロススパーサー	KS-3T, KS-5T	PE	(株)アイコットリョーフ	100, 200個/袋	-

### 2.2. 構成部材姿図

名称	弾性接着剤			
品名	スタップ・ジーエス	スタップ・ジーレス	タイルエースF	タイルエース石材用
形状				
品番	STAP-GS/Gr Wh	STAP-GLS/Gr	RE-217	RE-405
用途	タイル用接着剤	タイル用接着剤 (軽量)	タイル用接着剤 (大形)	タイル用接着剤 (大形)
仕様	変成シリコーン系	変成シリコーン系	変成シリコーン系	変成シリコーン系
入数	9本/箱	9本/箱	20本/箱	20本/箱
容量	2 kg/本	2 kg/本	500ml/本	500ml/本

名称	弾性接着剤	タッチアップ剤	保護剤	目地材
品名	タイルエース床用	タッチアップ剤 (溶剤)	フェイスコート	ブリックマスター
形状				
品番	RE-505	SIZAI TOUC	SIZAI FACE	IC-***
用途	タイル用接着剤	タイル切断面タッチアップ剤	タイル切断面保護剤	目地材
仕様	変成シリコーン系	溶剤系	シリコーン系溶剤	既成調合モルタル
入数	9本/箱	1缶/梱	1缶/梱	25 kg/袋
容量	1.9本/本	50ml/缶	50ml/缶	-

## (施工補助材)

名称	タイルクリップ工法附			目地スペーサー	
品名	スペーサークリップ (ロングタイプ)	メタル製ベンチ	ブラクサビ	十字クロススペーサー	T字クロススペーサー
形状					
品番	TT500L-2	FP-1	TK100	KS-3(3mm 目地専用) KS-5(5mm 目地専用)	KS-3T(3mm 目地専用) KS-5T(5mm 目地専用)
用途	タイル目地・レベル合わせ	タイル目地・レベル合わせ	タイル目地・レベル合わせ	タイル目地調整	タイル目地調整
入数	500個/袋	1本	100個/袋	3mm 目地専用:200個/袋 5mm 目地専用:100個/袋	3mm 目地専用:200個/袋 5mm 目地専用:100個/袋

## 2.3. 推奨工具

名称	接着剤塗布		タイル切断	充填工具
品名	3mmクシ目コテ	5mmクシ目コテ	ダイヤモンドホイール	クリーンパックガン
形状				
品番	STAP KSK3	STAP KSK5	STAP DW-106	STAP CG
用途	接着剤塗布	接着剤塗布	タイル切断	シーリング充填
仕様	ステンレス	ステンレス	ダイヤモンドホイール	-
入数	1丁/梱	1丁/梱	1枚/梱	1丁/梱
容量	210x70	210x70	φ100	スペアノズル2ヶ同梱

種類	ホールソー (現調)		釘・ビススタイル孔開け (現調)	
品名	ホールソーφ30	ホールソーφ45	アクアショットφ4.0	クールダイヤモンドφ8.0
形状				
品番	市販品	市販品	市販品	市販品
用途	パネル孔開け	パネル孔開け	タイル孔開け	ビス頭座繰り
仕様	ダイヤモンドホールソー	ダイヤモンドホールソー	ダイヤモンドドリル	ダイヤモンドドリル
入数	1本/梱	1本/梱	1本/梱	1本/梱
寸法・容量	φ30.0	φ45.0	φ4.0	φ8.0

### 3. 内装壁 施工手順

#### ■ 標準工程

躯体および タイル下地 工事	3.1 事前チェック
	▽
	3.2 割付け・墨出し
	▽
	3.3 付属部材の取付け
	▽
	3.4 タイル張り
	▽
3.5 シーリング工事	
▽	
3.6 清掃・残材処理	
▽	
3.7 補修・点検	

- ・ 材料の養生が適切に行われていることを確認してください。
- ・ 材料の集積場所や養生方法について、事前に打ち合わせを行ってください。

#### 3.1.5. 安全工事の確認

- ・ 現場の安全管理規定を遵守してください。
- ・ 作業員は正しい服装をし、定められた保護具（ヘルメット等）を正しく着用してください。
- ・ 作業終了後は、整理整頓と後片付けを確実に行ってください。
- ・ 1日の作業量を考慮し、足場上げた材料はその日のうちに使用し、翌日に持ち越さないようにしてください。
- ・ 風などによる材料の落下防止対策を、毎日確認してください。
- ・ 火災予防に十分注意してください。
- ・ 接着剤の臭気が残らないよう換気措置を十分におこなってください。



#### 3.1.6. 内部作業足場の確認

- ・ タイル張りが高所となる場合は、内部足場の設置を確認してください。
- ・ 足場が安全な状態であることを確認してください。
- ・ 作業のために取り外した筋かい・足場・控え等は、作業後速やかに元の状態に戻してください。



#### 3.1.7. その他の確認

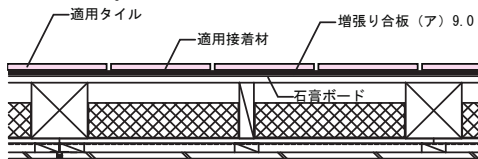
- ・ 基準墨出しが完了していることを確認してください。
- ・ 残材の処理方法（1カ所集積等）が決定されていることを確認してください。

#### 3.1. 事前チェック

下地およびタイル工事は、内壁の仕上がりに大きく影響します。下記の要領に基づき、下地およびタイル工事が正しく行われるよう、関係者間で事前に十分な打ち合わせを行ってください。なお、本マニュアルにはタイル工事業者の施工対象範囲外の内容が含まれます。

##### 3.1.1. 下地の確認

- ・ 下地の種類、施工法が正しく実施されているか確認してください。
- ・ 下地に水濡れや雨染みがないことを確認してください。
- ・ 下地にガタつきや変形がないことを確認してください。
- ・ 下地の凹凸、ひび割れ、破損、著しい表面の汚染がないか確認してください。
- ・ 釘やビスの突出や過度なめり込みがないか確認してください。
- ・ 面精度は±1.0 mm/2m 以内を確認してください。
- ・ 正しいタイル施工ができないと判断される場合は、監督者に報告し下地の調整をご依頼ください。
- ・ 張付け高さが3mを超える場合は、タイル接着保持力のため合板を増張りしてください。



##### 3.1.2. サッシおよび開口部の確認

- ・ サッシの位置や規格に変更がないか確認してください。
- ・ サッシおよびサッシ水切り金物を取り付けられていることを確認してください。
- ・ 通気ガラリ、先付けの設備器具が取り付けられていることを確認してください。

##### 3.1.3. 付属工事の確認

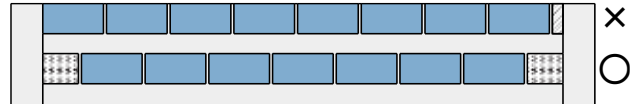
- ・ タイルに干渉する空調設備などの付属工事は、あらかじめ、タイル張り区画の納まりを確認してください。

##### 3.1.4. 材料の確認

- ・ 仕様通りの材料が必要量納入されていることを確認してください。
- ・ 専用付属品が仕様通りに必要量納入されていることを確認してください。

#### 3.2. 割付け・墨出し

- ・ 入隅部、他部材との取合いは1~5 mmの隙間をあけてください。
- ・ 端部に小さな切り物が入らないようにしてください。
- ・ 小幅切断タイルとなる場合は、 $\text{マモノW} + \text{小幅W} \div 2$ の切断タイルを検討してください。



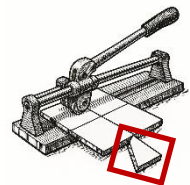
#### 3.3. 付属部材の取付け

- ・ エアコンダクトや給気口はあらかじめ設置してください。タイル施工後に壁面への穴あけは、下地とタイルを破損する恐れがあります。
- ・ あらかじめ設計図や仕様書をよく確認してください。

#### 3.4. タイル張り

##### 3.4.1. 切断加工

- ・ 切断加工は多量の切粉が発生しますので、外部での加工または集塵機での塵埃飛散に注意してください。
- ・ ダイヤモンドチップソーなどを使用してください。
- ・ 押切カッターはタイル端部が鋭利となるため、ヤスリなどで面取り加工処理してください。



### 3.4.2. 接着剤の塗布

#### 3.4.2.1. 下地全面塗り

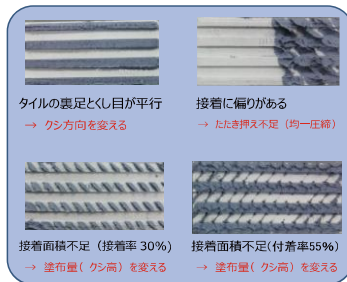
- ・ユニット化されたタイルや、二丁掛けタイルに適します。
- ・スタップ・ジーエスを下地に塗り付けた後、コテ角度60度でかき取るようにしてくし目を立ててください。
- ・かき取りはコテを下地面に対し45°~60°程度に傾けて下地が透けないようにかき取ってください。
- ・下地ジョイント部には、スタップ・ジーエスを塗り込んでください。
- ・だんご（点付け）施工はしないでください。接着剤の硬化が遅くなり、剥離の原因となることがあります。
- ・以下に塗布種類を示しますが、建築物の実況より検討してください。
- ・裏足があるタイルのクシ目方向は、裏足に対し斜行としてください。

#### ■ 塗布施工法の選定例

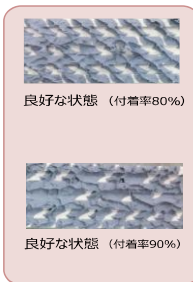
タイル種類	コテ種類	塗布方法
裏ネットユニット	3ミリクシ目コテ	クシ目立て
表紙ユニット	5ミリクシ目コテ	平押さえ
二丁掛け・300角	5ミリクシ目コテ	クシ目/平押さえ

接着剤の付着面積を確保してください。タイル裏面積の60%以上です。

・悪い例

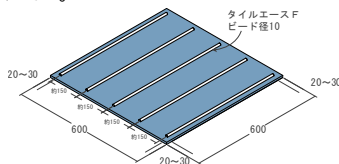


・良い例



#### 3.4.2.2. タイルビード塗布

- ・大形の600角タイルに適します。
- ・積み上げ張りとしてください。
- ・目地部には施工補助十字スペーサーなどで適切な目地幅を確保してください。



#### 3.4.2.3. タイルだんご塗布

- ・大形の600角タイルや、出入り調整が大きくなる場合に適します。
- ・積み上げ張りとしてください。
- ・目地部には施工補助十字スペーサーなどで適切な目地幅を確保してください。

#### 3.4.2.4. 張付けのポイント

- ・スタップ・ジーエスを塗布する際は、他の部材を汚さないよう、あらかじめ養生シート等でしっかりと養生を行ってください。
- ・接着剤が他部材に付着したまま放置すると、硬化後は除去が困難になりますので、必ず拭き取ってください。
- ・板間の周囲は、段差が出ないように、しっかりと押さえ込んでください。
- ・入隅部やサッシまわりなど、下地面でシーリング処理を行った箇所については、シーリング材の色が見えないようにスタップ・ジーエスで塗りつぶしてください。

#### 3.4.2.5. 目地直し

- ・目地直しは、タイル張付け後、速やかに行ってください。
- ・スタップ・ジーエスの硬化速度は気温などの環境条件によって変化します。特に夏期は硬化が早まるため、早めに目地直しを完了させてください。
- ・目地直しの際にタイルを大きく動かしてしまい、目地に凹凸が生じた場合は、硬化前に目地鏝（こて）等で押さえ、平滑に整えてください。その際、タイル側面にスタップ・ジーエスが付着しないよう十分に注意してください。
- ・裏面連結ユニットを使用している場合に目地直し・目地調整を行う際は、タイル張付け後に連結用ネットをカッターナイフ等で切断し、目地を調整してください。
- ・スタップ・ジーエスが硬化すると、目地幅の調整ができなくなります。硬化時間に十分ご注意ください。

#### 3.4.2.6. 表紙ユニットの紙剥がし・洗い

表紙ユニットを施工する際は、4~6㎡を目安にしてタイルユニット紙に水湿しをしてください。

- ・表紙が濡れ色になるまで、十分に水を塗布してください。
- ・糊が軟化するまで、表紙を剥がさないでください。
- ・糊が硬化したまま表紙を剥がすと、表紙が破れてタイル表面に残る原因となります。
- ・目安は水湿した後、3分程度放置してください。



#### 3.4.2.7. 目地詰め

- ・床面を汚染しないよう養生してください。
- ・タイル張付け後、少なくとも1日以上経過し、タイルが動かないことを確認し目地詰めを行ってください。
- ・目地詰めは、ゴムごてを用いた塗目地または目地ごて（目地詰め用チューブ）を用いた一本目地で行ってください。



- ・目地材の締めりを見計らって目地ごてを用いて所定の深さにこぼ切りし、入念にコテ押えを行ってください。ただし、目地幅5mm以下の場合、コテ押えを省略しても構いません。
- ・目地詰め後、タイル面の清掃を行ってください。その際、窓周りや他部材との取り合い部などのシーリング処理を行う部分にはみ出した余分なモルタルを除去してください。
- ・清掃は水洗いを原則とし、ブラシなどを用いてタイル表面に汚れが残らないように注意して行ってください。
- ・目地材による汚れがはなはだしいときは、工業用塩酸30倍希釈液を用いて酸洗いを行ってください。この場合は、事前にサッシ等の金物の養生を行い、酸洗いののちにタイル面や目地部分に塩酸が残らないように、直ちに十分な水洗いをしてください。

## 3.5. シーリング工事

### 3.5.1. 材料

- ・シーリング材：POSシールLM（専用プライマー：MP-1000）
- ・ジョイナー：ハット型ジョイナー（MJ-100）、片ハットジョイナー（MJK-104）
- ・充填工具：クリーンパックガン（STAPCG）

### 3.5.2. 工事

#### 3.5.2.1. 事前確認

- ・シーリング材打設部分の目地幅が、約10mm確保されているか確認してください。
- ・養生テープにガムテープなどの粘着性の強いテープは、化粧面の剥離や、粘着材が残ったりしますので使用しないでください。

#### 3.5.2.2. 施工前の天候確認

- ・シーリング材の工事は晴天の日に行ってください。
- ・前日が雨や雪の場合は、被着面が十分に乾燥している状態を確認の上、施工してください。
- ・外気温が5℃以下、または被着面の温度が50℃以上の場合、マスキングテープの粘着異常、シーリング材の硬化不良や発泡などの不具合が起きるので施工を中止してください。
- ・万一天候があわない場合は、作業を中止してください。

#### 3.5.2.3. 被着面の清掃

- ・被着面のゴミ、油分、水分はハケや布で除去した後、拭き取ってください。
- ・被着面のゴミ、油分、水分は、シーリング材の接着不良になります。



#### 3.5.2.4. バックアップ材またはボンドブレイカーの充填

- ・目地幅は10mm以上、目地深さは8～10mm程度確保してください。
- ・シーリング材の伸縮自在性を確保するため、3面接着を防止できる専用ハット型ジョイナーを使用するか、目地幅にあったバックアップ材、またはボンドブレイカー（剥離テープ）付きハット型ジョイナーを使用し、正しく施工してください。
- ・開口部、軒天部等、他部材との取り合い部の目地には、バックアップ材を充填して、3面接着を防止し目地深さを確保してください。!



#### 3.5.2.5. マスキング養生テープ張り

- ・目地の両側に沿ってマスキングテープを張ってください。この時シーリング材がスタップ・ボード表面にはみ出さない様、端からきちんと注意して張ってください。スタップ・ボード表面にはみ出すと、不陸の原因となりますので、注意してください。
- ・マスキングテープを張り付けて長時間放置すると、スタップ・ボード表面を損傷することがありますので、張り付け後2日以内でシーリング材が硬化しないうちに剥がしてください。
- ・マスキングテープは粗面用を使用し、ガムテープなどの粘着性の強いテープの使用は避けてください。



#### 3.5.2.6. プライマー塗布

- ・プライマーは、適切な刷毛（同梱）を使用し、塗り残しの無いよう均一に確実に塗布してください。シーリング材と同梱のプライマーは、シーリング材本数に見合うロス込みの必要量です。残さずに全量を使い切ってください。
- ・プライマーの塗布後30分以上6時間以内にシーリング材を施工してください。
- ・被着面以外には、プライマーが付着しないように注意してください。
- ・プライマー塗布忘れは、シーリング材の接着不良になります。



#### 3.5.2.7. シーリング材の充填

- ・目地幅に合わせたノズルで気泡、打ち残し、隙間なく目地の隅々まで盛り上げるようにシーリング材を充填してください。盛り上げが不足すると、接着充填不良になりますので注意してください。



#### 3.5.2.8. ヘラ押え

- ・ヘラなどを用い、シーリング材を押し込むようにして表面を平滑にしてください。
- ・ヘラ押えは、シーリング材表面が硬化する前に行い、充填後30分以内が目安となります。
- ・ヘラ押えをしないと接着充填不良になりますので、注意してください。



#### 3.5.2.9. マスキングテープ剥がし

- ・シーリング材が硬化しない間に、マスキングテープを速やかに棒切れ板などに巻き付けながら剥がしてください。
- ・マスキングテープ上にはみ出したシーリング材が、スタップ・ボード表面に付着しない様に注意して行ってください。
- ・シーリング材が完全に硬化しないうちに、振動や衝撃を与えないでください。



#### 3.5.2.10. 清掃

- ・マスキングテープの糊、充填箇所以外に付着したシーリング材及びプライマーは拭き取ってください。

#### 3.5.2.11. 仕上りのチェック

- ・施工目地幅よりはみ出したシーリング材や、板表面に付着したシーリング材をそのまま放置すると、タイル面の不陸原因となりますので完全に除去してください。
- ・充填作業終了後、目視にてシーリング材の打残し、表面の凹凸気泡などの仕上り状態をチェックしてください。
- ・各工程、仕上り状態など、工事チェックリストを用いて確認しながら施工してください。

### 3.6. 清掃・残材処理

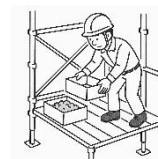
#### 3.6.1. 清掃

タイル施工箇所だけでなく、内部足場や造作などの周囲清掃を行ってください。



#### 3.6.2. 残材処理

- ・ 残材は指定場所に処理ください。
- ・ 各自治体の廃棄区分に従ってください。



### 3.7. 点検・補修

#### 3.7.1. 点検

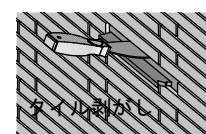
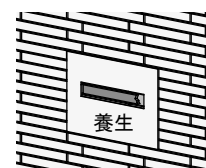
- ・ タイル張りに不具合が無いか確認してください。
- ・ 必要に応じてチェックシートを作成してください。



#### 3.7.2. 補修

##### ■ タイル部分張替え

- ・ 部分的に割れたタイルは交換して補修してください。
- ・ タイル目地詰め有りの場合は電動カッターで目地切りを行うと共に、タイルに2～3箇所の切り込みを入れ、平タガネ等を用いてタイルを取り外してください。また、周囲の目地材も取り除いてください。
- ・ 目地詰めがない場合は、取り除くタイルに沿ってカッターナイフで接着剤に切り込みを入れ、皮スキ、平タガネ等でタイルを取り外してください。周囲の養生の仕方については、新聞紙を水で濡らしてガムテープなどで養生する方法などがあります。
- ・ サイディング表面に残った接着剤を皮スキ、平タガネ等できれいに除去してください。
- ・ サイディング表面の塗装に剥がれ、傷などが生じた場合には、補修用のプライマーまたは防水シーラーなど接着剤メーカーが指定する材料を塗布して、乾燥させてください。
- ・ 接着剤を均一に塗布し、不陸がないようにタイルを張付けてください。
- ・ 後張りするタイルは接着材の付着不足にならないよう注意してください。



## 4. 内装床 施工手順

### ■ 標準工程

躯体およびタイル下地工事	3.1 事前チェック
	▽
	3.2 割付け
	▽
	3.3 付属部材の取付け
	▽
	3.4 タイル張り
▽	
3.5 目地処理	
▽	
3.6 清掃・残材処理	
▽	
1.1 補修・点検	

#### 4.1. 事前チェック

下地およびタイル工事は、仕上がりおよび性能に大きく影響します。下記の要領に基づき、タイル工事が正しく行われるよう、関係者間で事前に十分な打ち合わせを行ってください。なお、本マニュアルにはタイル工事業者の施工対象範囲外の内容が含まれます。

##### 4.1.1. 下地組の種類

住宅 木造など		マンション RC造など	
根太組 合板下地	剛床 合板下地	二重床 合板下地	コンクリート 直張り
適用 ③303以下	適用 受材あり	(適用) 仕様確認	適用外

##### 4.1.2. 下地の確認

- 下地の種類、施工法が正しく実施されているか確認してください。
- 下地に水濡れや雨染みがないことを確認してください。
- 下地にガタつきや変形がないことを確認してください。
- 下地の凹凸、ひび割れ、破損、著しい表面の汚染がないか確認してください。
- 釘やビスの突出や過度なめり込みがないか確認してください。
- 面精度は±1.0 mm/2m 以内を確認してください。
- 正しいタイル施工ができないと判断される場合は、監督者に報告し下地の調整をご依頼ください。



##### 4.1.3. 点検口および床設備の確認

- 点検口の位置や規格に変更がないか確認してください。
- 通気ガラリ、先付けの設備器具が取り付けられていることを確認してください。

##### 4.1.4. 付属工事の確認

- あらかじめ、タイルに干渉する水廻り設備、造作設備などの付属工事については、タイル張り区画の納まりを確認してください。

##### 4.1.5. 材料の確認

- 仕様通りの材料が必要量納入されていることを確認してください。
- 専用付属品が仕様通りに必要量納入されていることを確認してください。

- 材料の養生が適切に行われていることを確認してください。
- 材料の集積場所や養生方法について、事前に打ち合わせを行ってください。

##### 4.1.6. 安全工事の確認

- 現場の安全管理規定を遵守してください。
- 作業員は正しい服装をし、定められた保護具（ヘルメット等）を正しく着用してください。
- 作業終了後は、整理整頓と後片付けを確実に行ってください。
- 1日の作業量を考慮し、足場上げた材料はその日のうちに使用し、翌日に持ち越さないようにしてください。
- 風などによる材料の落下防止対策を、毎日確認してください。
- 火災予防に十分注意してください。



##### 4.1.7. 作業場所の確認

- 内部足場、大工工事の部材などタイル張り工事の支障となる場合は、現場監督に申し出てください。

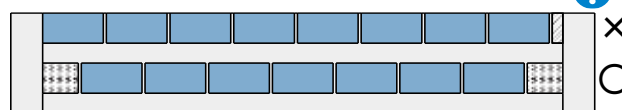


##### 4.1.8. その他の確認

- 基準墨出しが完了していることを確認してください。
- 残材の処理方法（1カ所集積等）が決定されていることを確認してください。

#### 4.2. 割付け・墨出し

- 入隅部、他部材との取合いは1~5 mmの隙間をあけてください。
- 端部に小さな切り物が入らないようにしてください。
- 小幅切断タイルとなる場合は、 $\text{マモノW} + \text{小幅W} \div 2$ の切断タイルを検討してください。



#### 4.3. 付属部材の取付け

- エアコンダクトや給気口はあらかじめ設置してください。タイル施工後に床面への穴あけは、下地とタイルを破損する恐れがあります。
- あらかじめ設計図や仕様書をよく確認してください。

#### 4.4. タイル張り

##### 4.4.1. 切断加工

- 切断加工は多量の切粉が発生しますので、外部での加工または集塵機での塵埃飛散に注意してください。
- ダイヤモンドチップソーなどを使用してください。
- 押切カッターはタイル端部が鋭利となるため、ヤスリなどで面取り加工してください。

##### 4.4.2. 接着剤の塗布

###### 4.4.2.1. 下地全面塗り

- タイルエース床用を下地に塗り付けた後、かき取るようにしてくし目を立ててください。
- かき取りはコテを下地面に対し45°~60°程度に傾けて下地が透けないようにかき取ってください。
- だんご（点付け）施工はしないでください。接着剤の硬化が遅くなり、剥離の原因となることがあります。
- 塗接着剤の付着面積を確保してください。タイル裏面積の90%以上です。
- 以下に塗布種類を示しますが、建築物の実況より検討してください。

###### ■ 塗布施工法の選定例

タイル種類	コテ種類	塗布方法
300角、二丁掛けなど	5ミリクシ目コテ	クシ目立て
630タイルなど	5ミリクシ目コテ	クシ目立て
600角など	8ミリクシ目コテ	クシ目立て

#### 4.4.2.2. 張付けのポイント

- ・スタップ・ジーエスを塗布する際は、他の部材を汚さないよう、あらかじめ養生シート等でしっかりと養生を行ってください。
- ・接着剤が他部材に付着したまま放置すると、硬化後は除去が困難になりますので、必ず拭き取ってください。
- ・板間の周囲は、段差が出ないように、しっかりと押さえ込んでください。
- ・入隅部やサッシまわりなど、下地面でシーリング処理を行った箇所については、シーリング材の色が見えないようにスタップ・ジーエスを塗りつぶしてください。

#### 4.4.2.3. タイルクリップ工法について

- ・表面の段差や不陸を平滑に仕上げるために、「タイルクリップ工法」をご用意しています。必要に応じてご活用ください。
- ・スペーサークリップの厚みにより、接着剤の付着面積が不足するおそれがあります。クシ目コテの高さ種類を変更するなどして、接着剤の付着面積が十分に確保されていることをご確認ください。
- ・「ブラクサビ」による平滑化の工程では、タイルを上方向に持ち上げるため、接着剤の付着面積が不足する可能性があります。ブラクサビを挿入する前に、タイルをしっかりと揉み込んで下地に密着させてください。

#### 4.4.2.4. 目地直し

- ・目地直しは、タイル張付け後、速やかに行ってください。
- ・スタップ・ジーエスの硬化速度は気温などの環境条件によって変化します。特に夏期は硬化が早まるため、早めに目地直しを完了させてください。
- ・目地直しの際にタイルを大きく動かしてしまい、目地に凹凸が生じた場合は、硬化前に目地鏝（こて）等で押さえ、平滑に整えてください。その際、タイル側面にスタップ・ジーエスが付着しないよう十分に注意してください。
- ・裏面連結ユニットを使用している場合に目地直し・目地調整を行う際は、タイル張付け後に連結用ネットをカッターナイフ等で切断し、目地を調整してください。
- ・スタップ・ジーエスが硬化すると、目地幅の調整ができなくなります。硬化時間に十分ご注意ください。

良好な付着率（90%）



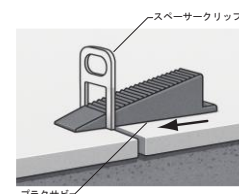
不良な付着率（60%）

塗布量を増やして揉みこみ圧縮



不良な付着率（40%）

塗布量を増やして揉みこみ圧縮



### 4.5. 目地処理

#### 4.5.1. 目地詰め

- ・他部位を汚染しないよう養生してください。
- ・タイル張付け後、少なくとも1日以上が経過し、タイルが動かないことを確認し目地詰めを行ってください。
- ・目地材は、製造メーカーの施工仕様に従ってください。
- ・シーリング目地とする場合は、P.10を参考にしてください。
- ・目地詰めは、ゴムごてを用いた塗目地または目地ごて（目地詰め用チューブ）を用いた一本目地で行ってください。
- ・目地材の締めを見計らって目地ごてを用いて所定の深さにこぼ切りし、入念にコテ押えを行ってください。ただし、目地幅5mm以下の場合には、コテ押えを省略しても構いません。
- ・目地詰め後、タイル面の清掃を行ってください。その際、他部材取り合い部などのシーリング処理を行う部分にはみ出した余分なモルタルを除去してください。
- ・清掃は水洗いを原則とし、ブラシなどを用いてタイル表面に汚れが残らないように注意して行ってください。
- ・目地材による汚れがはなはだしいときは、工業用塩酸30倍希釈液を用いて酸洗いを行ってください。この場合は、事前にサッシ等の金物の養生を行い、酸洗いののちにタイル面や目地部分に塩酸が残らないように、直ちに水洗いをしてください。
- ・室内で大量の水が使用できないため、スポンジでのふき取りをしてください。

#### 4.5.2. シーリング工事

P.10 シーリング工事を参照してください。

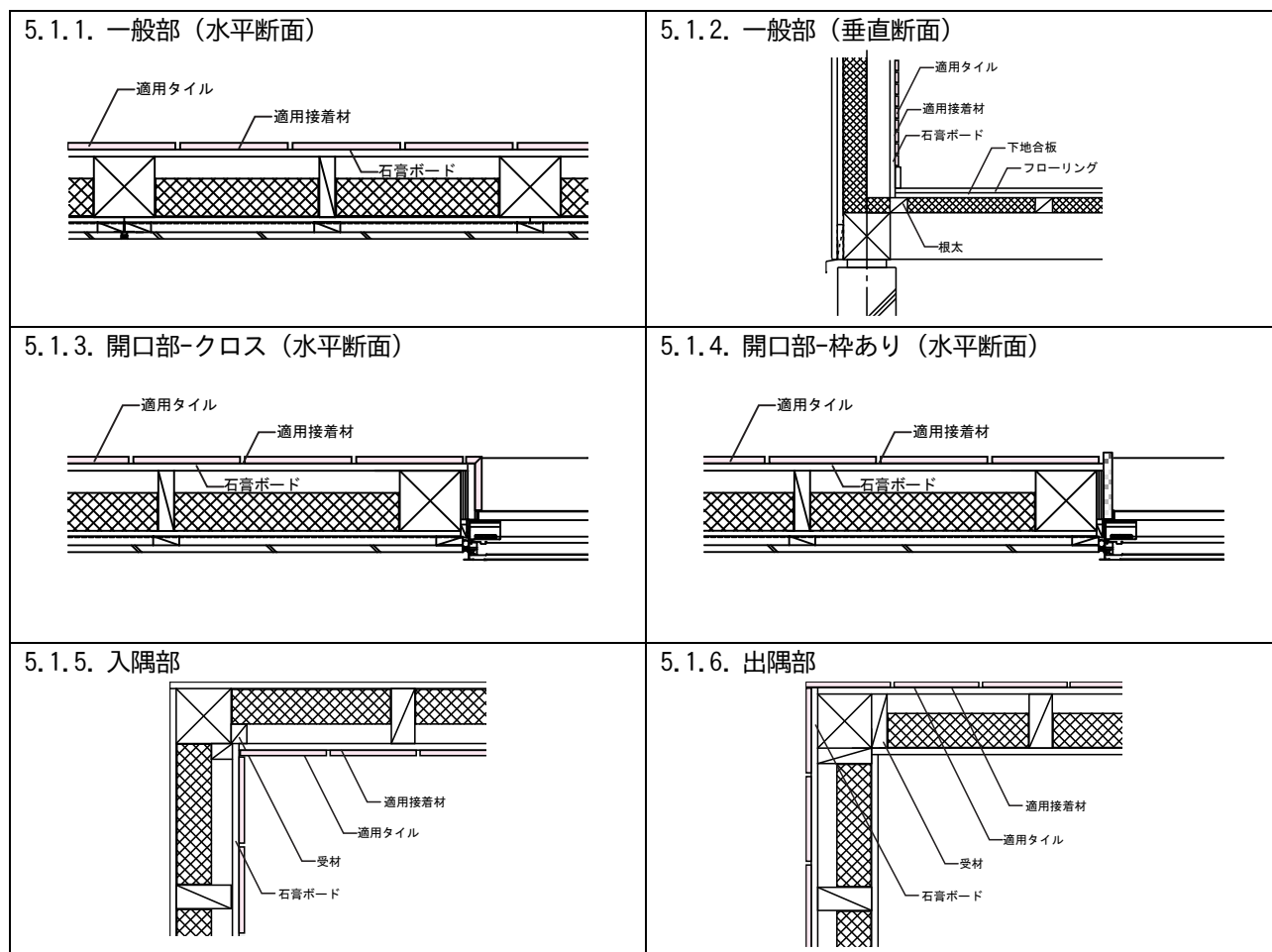
#### 4.6. 清掃・残材処理

#### 4.7. 補修・点検

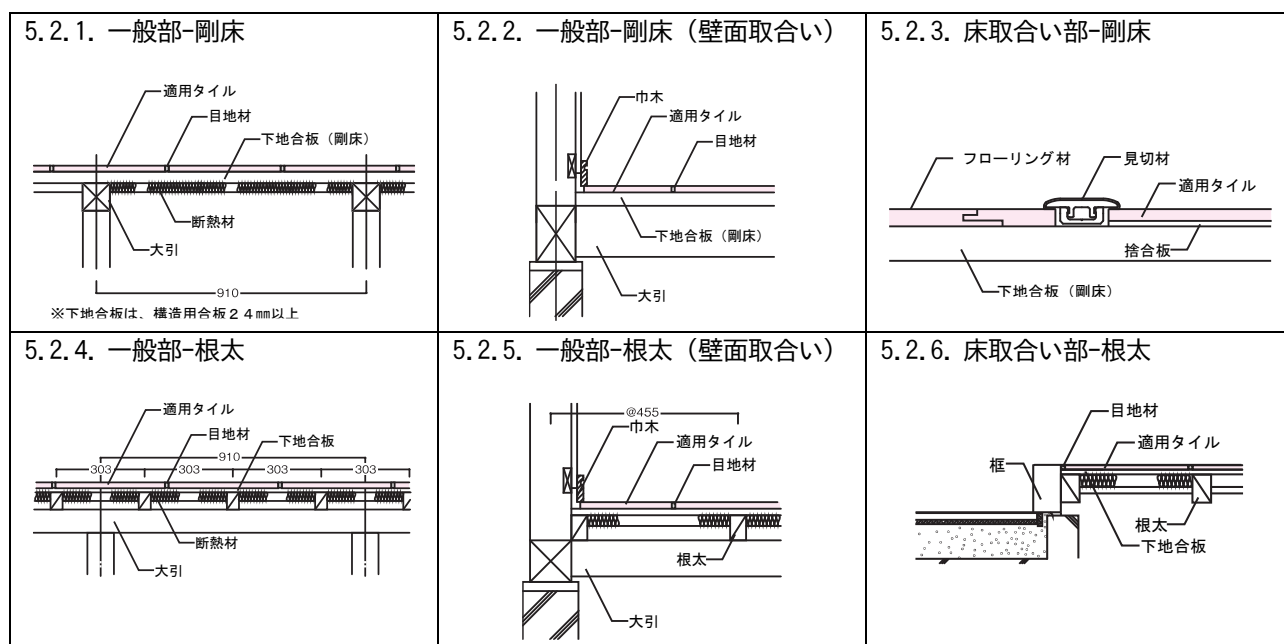
P.11を参照してください。

## 5. 納まり図

### 5.1. 内装壁



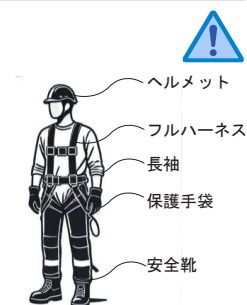
### 5.2. 内装床



## 6. 注意事項

### 6.1. 安全衛生について

- ・ 安全第一に徹すること
- ・ 作業服は上下共に正しく着用すること
- ・ 作業場の整理整頓を行うこと
- ・ 作業者相互の安全確認を十分行うこと
- ・ 健康状態を十分確認すること
- ・ 電動工具、空気圧工具の安全性チェックを行うこと



#### 6.1.1. 安全衛生規則

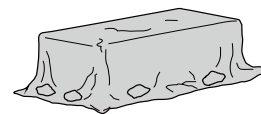
- ・ 安全ヘルメット（墜落保護用）を着用すること。（労働安全衛生規則第539条）
- ・ 滑りやすい履物を使用しないこと。（建設業労働災害防止規程第25条）
- ・ 墜落の恐れがあるときは、安全帯を着用すること。（労働安全衛生規則第520条）
- ・ 足場の安全性を確認すること。
- ・ 切断作業の際、長時間多量の粉塵を吸収すると健康を損なう恐れがあります。集塵装置付カッター並びに局所排気装置、防塵マスクの着用、うがい手洗いの励行、切断片の安全な処分等に留意してください。

### 6.2. 部材保管・納入時の注意

#### 6.2.1. 保管

- ・ 不具合の原因となりますので、濡らさないようにし、施工現場では必ずシートをかけて保管してください。
- ・ 保管は原則、屋内の堅い水平な場所に保管してください。やむを得ず屋外に置く場合は、風雨を避けるためポリエチレンなどの防水シートで覆い、シートが飛ばないように養生してください。
- ・ 地面に直接置かないで、パネルや角材を用いて飼木（かいぎ）をしてください。
- ・ 日陰で風通しがよい場所に保管してください。

■ 屋外（現場）に保管する場合



#### 6.2.2. 取扱い

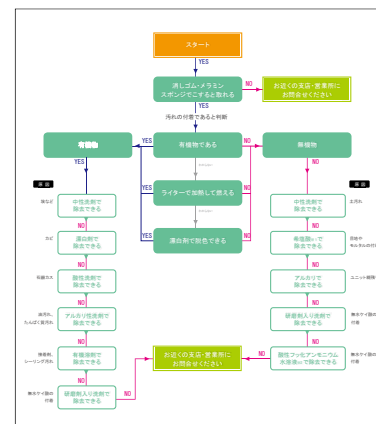
- ・ 車輛などでの運搬時は平積みをし、急ブレーキ時の損傷を防ぐため、ロープを掛け、角には必ず当て板をしてください。
- ・ クレーンでつり上げる時には、ロープによる損傷を防ぐため当て板を行い、損傷の無いようにしてください。
- ・ 持ち運びは、垂直に小端立てにして運んでください。また、汚れた手で触らないように注意してください。
- ・ 当てたり、落としたりして、角などを損傷しないよう十分注意してください。
- ・ 汚れた手で触らないように注意してください。水濡れしたものは使用しないでください。
- ・ 逆さ持ちや、側面を上方にしないでください。
- ・ カッターナイフ等で開封する際は、製品を傷つけないよう注意してください。



### 6.3. 維持管理のポイント

#### ■ 日常の維持管理とお手入れ方法

- ・ ご使用中の環境や、他部材からのもらい汚れなどで、タイル表面の汚れが目立つ場合があります。日常のお手入れ方法で除去できない場合は、汚れ除去フローに従って、適切な処置を行ってください。
- ・ 空目地の場合は、目地部接着剤に変色や劣化の影響が出ないよう、十分に注意してください。
- ・ 洗剤や薬剤を使用する場合は、それぞれの取扱説明書に従って正しく使用してください。また、必要に応じて保護具（眼鏡、マスク、ゴム手袋など）を着用してください。
- ・ 洗浄は、目立たないところで効果を確認し、実施してください。
- ・ 希塩酸やシュウ酸、強酸性洗剤と塩素系漂白剤やカビ取剤などを混ぜると、塩素ガスが発生する場合がありますので、同時に使用しないで下さい。
- ・ 強酸性洗剤や希塩酸を使用する場合は、金属製品が錆びたり目地部が侵される恐れがあるので、洗剤がかからないよう注意してください。
- ・ 漂白剤や有機溶剤を使用する場合は、十分換気してください。
- ・ 洗浄後は、十分水洗いを行い、洗浄剤が残らないようにしてください。



※ カタログ参照ください。

## 7. 適用タイルリスト (2026.4)

○…適用 △…下地実況による 一本…一本目地詰め 塗…塗目地 (塗)…塗目地またはシーリング目地  
U…ユニット化製品

### 7.1. 内装壁

No.	区分	製品名	U	適用工法			目地詰め
				全 面	ビード	ダンゴ	
1.	小形	アーバングランドボーダー	○	○			
2.		マールン (プラス)	○	○			
3.		粉引		○			
4.		ケール	○	○			
5.		コラス	○	○			
6.		レクサム	○	○			
7.		ソフィア (プラス)	○	○			
8.		ストラトボーダーII	○	○			
9.		ユニゾン	○	○			塗
10.		コーネルボーダー	○	○			
11.		ミューク	○	○			
12.		ボルツ	○	○			塗
13.		雪粉	○	○			
14.		トライオン	○	○			
15.		ライブテッセラ	○	○			
16.		カノンII	○	○			
17.		(大) 粉引		○			
18.		ザーラ		○		○	一本
19.		鐘音		○			一本
20.		響		○			一本
21.		レリック (ボーダー)		○			一本
22.		クラシック (ボーダー)		○			一本
23.		スカーフェイス		○			一本
24.		アンティグア		○			一本
25.		外灘洋		○			一本
26.		ゴードン		○		○	一本
27.		ウーノ		○			一本
28.		シャンハイブルー		○			一本
29.	中形	ブロードストーン		○			(塗)
30.		ティア		○			(塗)
31.		フォーチュンハンマー		○			(塗)
32.	大形	山茶		△	○	○	(塗)
33.		アーバングランド		○	○	○	(塗)
34.		トラヴァアート		△	○	○	(塗)
35.		ライトクォーツ		△	○	○	(塗)
36.		カリラ		△	○	○	(塗)
37.		クラレット		△	○	○	(塗)
38.		ストリームストーン		△	○	○	(塗)
39.		イオニア		△	○	○	(塗)
40.		セロII		△	○	○	(塗)
41.		ブレンダ		△	○	○	(塗)
42.		ソフトコンクリート		△	○	○	(塗)
43.		アーレイ		△	○	○	(塗)
44.		ナバラ		△	○	○	(塗)
45.		クリンディア		△	○	○	(塗)
46.		ウッドマイスター		○			(塗)

### 7.2. 内装床

No.	区分	製品名	U	適用工法			目地詰め
				全 面	ビード	ダンゴ	
1.	小形	クラシック		○			一本
2.	中形	デフィII		○			(塗)
3.		ティア		○			(塗)
4.		フォーチュンハンマー		○			(塗)
5.	大形	トラヴァアート		○			(塗)
6.		ライトクォーツ		○			(塗)
7.		カリラ		○			(塗)
8.		クラレット		○			(塗)
9.		ストリームストーン		○			(塗)
10.		イオニア		○			(塗)
11.		セロII		○			(塗)
12.		ブレンダ		○			(塗)
13.		ソフトコンクリート		○			(塗)
14.		アーレイ		○			(塗)
15.		ナバラ		○			(塗)
16.		クリンディア		○			(塗)
17.	ウッドマイスター		○			(塗)	